

KSN 通信 VOL.150

こんにちは。いつも弊社をご利用いただき、誠にありがとうございます。

季節は秋を迎え、寒さが増してくるにつれて心配になるのが冷えや風邪など感染症の流行ですが、寒い時期を元気に乗り越える秘訣の一つが温かい朝食です。厚生労働省では一日の食事を、朝食：昼食：夕食＝3：3：4の割合でとるように勧めています。一日で最も体温が下がっている朝にエネルギーを補充すると、重要な臓器に栄養がいきわたって機能が活性化することにより、体が温まり免疫力が上がり感染予防にも繋がります。



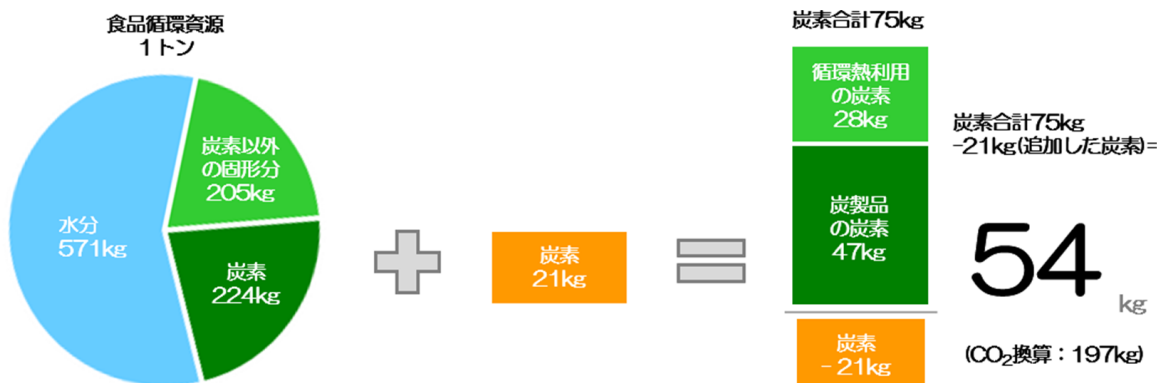
■ KSN ニュース

■ ホームページに『新たな炭素モデルの構築』を開設しました

弊社ホームページにて、『新たな炭素モデルの構築』を開設いたしました。食品循環資源を炭化によるリサイクルを行うことによって、数値的にどのくらい炭素排出の削減がされているのか、自社データを元に示しております。現在、お客様にて削減炭素を有効に利用していただけるよう取組を進めております。ご興味等ございましたら、是非ともお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。【新たな炭素モデルの構築：<https://ksn.ne.jp/johokokai/carbonmodel/>】

■ 新たな炭素モデルの構築

お客様が食品循環資源を炭化によるリサイクルを行うことによって、食品循環資源 1 トン^{*1}あたり、54kg の炭素削減（CO₂換算：197kg）に貢献されています。



食品循環資源 1 トンには 571kg の水分、224kg の炭素、205kg の炭素以外の固形分が含まれています。一般的には食品循環資源の水分は 70%程度ですが、お客様の食品循環資源の性質を事前に調査・分析し、水分の低い食品循環資源を混ぜることによって水分率を調整し、エネルギー効率を高めるようにしています。

食品循環資源が含んでいる炭素 224kg に対して約 9%(21kg)の炭素を足します。炭素を足すというのは一部化石燃料などの外部エネルギーを使用するという意味で、水分や炭素以外の固形分を蒸発させたり、熱分解という現象を誘発させて炭素を炭に固定していきます。

循環熱利用は炭化に必要な熱を食品循環資源がもともと持っているカロリー(熱)で賄うという意味で、化石燃料の使用量削減の観点から、炭素量に換算すると 28kg の炭素排出を削減しています。炭製品はセメント業や鉄鋼業で石炭等の化石燃料の代わりに使用することで、47kg の炭素排出を削減し、合計 75kg の炭素が削減されます。一方で、炭化プロセスで化石燃料を由来とする炭素を 21kg 使用しているため、これを差し引くと、お客様の食品循環資源 1 トンあたり、54kg の炭素が削減されています。

*1：湿重量を示します。
*2：上記のデータは 2019 年 1～12 月の自社データより計算しています。

